

項 目	内 容
<p>1. 北海道つべつまちづくり株式会社との官民連携事業</p>	<p><b>①事業概要</b>                      平成27年度からのまちなか再生に係る継続事業。平成31年3月に設立され、特産品開発・事業創出支援などを実施。令和元年度より町からの委託事業として、“ふるさと納税事務代行・拡大業務”や“移住・起業・空家利活用相談窓口等運營業務”、令和3年度途中より“地域おこし協力隊募集・フォロー業務”を受託</p> <p><b>②進捗状況</b></p> <p>(1) 組織・全体                      11月13日から、「情報魅力発信」を任務に1名の協力隊員が着任し活動中。本隊員に関しては、協力隊インターン制度を活用し、10月16日から27日の間のうち10日間活動した後、地域おこし協力隊員として着任した。2月1日からは、「農業支援から農業従事者へ」を任務に1名の協力隊員が着任し、JAつべつで活動している。令和6年3月末時点での津別町地域おこし協力隊員は6名が活動中である。</p> <p>(2) 特産品開発                      特産品“クマヤキサブレ”については、町内外の各店舗で取扱いをしている。                      12月21日～1月20日の日程で、新千歳空港内「GOOD NEWS」の店舗内において、クマヤキサブレの販売・PRを行った。                      令和5年度のクマヤキサブレ売上高：4,456,123円                      ※前年度売上高：5,626,733円、前年比：△20.8%</p> <p>(3) 飲食店事業                      新型コロナウイルスが5類に分類されたことで、通常通り4月から営業を開始した。                      地域おこし協力隊員の1名が調理員として活動している。                      令和5年度の売上高：3,518,087円、前年比：148%</p> <p>(4) ふるさと納税事業                      4月に“ふるさと納税事務代行・拡大業務”の委託契約を締結。年間寄附目標額を1億円とし、PRなど様々な工夫を凝らして事業を推進。活用サイトは、“ふるさとチョイス”“楽天ふるさと納税”“ANAのふるさと納税”“さとふる”“ふるなび”の5サイトを運用している。</p>

### 【令和5年度実績】

各サイト掲載情報の整理や新規返礼品を追加するなど整備を実施し、寄附額・寄附件数とも前年を上回った。また、令和5年度も寄附目標額である1億円に届かず、令和5年度の寄附実績としては89,109,000円(5,244件)となった。※前年実績は85,539,000円(4,852件)  
(前年比)寄附金額：104%、寄附件数：108%

### 【広告戦略】

#### ○「ふるさと納税相談会」へ出展

日 時：9月27日～10月1日

会 場：ららぽーと豊洲

内 容：出展型のリアルイベントに参加。「流氷牛」「特別栽培たまねぎ」「特別栽培じゃがいも」「サンマルコ冷凍食品」「クマヤキサブレ」の5品展示

結 果：【申し込み件数】19件、【寄附金額】352,000円

#### ○楽天広告

掲載期間：12月15日～21日

内 容：つべつ和牛切り落としのグラム数を増加して50個限定で出品

結 果：50個すべて完売

### (5) 移住定住サポートデスク

4月に“移住・起業・空家利活用相談窓口等運営業務”の委託契約を締結。移住窓口業務や空き家バンクの運営などの業務を実施している。

町外在住者が所有している町内物件の利活用を図るため、税務収納係より発送した固定資産税の納付書に空き家バンクの紹介チラシ(一部、住宅系の事業紹介)を同封。チラシ同封の対象者は町内に物件を有する町外在住の個人400件程度である。また、8月・3月広報つべつにて空き家バンク紹介チラシを配布した。

インターネット(SNSやホームページ)、メールマガジン、チラシ、ポスター等各種媒体を活用して首都圏などへ継続した周知・PRを実施した。

また、11月11日開催の「北海道移住交流フェア(東京)」に参加し、津別町への移住期待度の高い夫婦とマッチングし、アイスクャンドルまつりへの参加のため実際に来町された。移住定住関係についても興味があるとのことで、令和6年度に地域おこし協力隊インターン制度の使用を予定している。

平成30年に作成した「移住パンフレット」の全面リニューアルを行った。これまでの情報更新だけでなく、移住定住発信サイト「チャレンジつべつ」や仕事情報発信サイト「ワークINつべつ」、空き家バンクの掲載内容を盛り込み、津別町での生活イメージができるものに刷新した。

町と連携して3月2日～3日に札幌市で開催された「北海道移住ドラフト会議(参加選手36名、球団12球

団)」に参加。同イベントで指名した選手とその他の選手等を含めた計7名の選手が来町予定である。

**【移住起業空き家等利活用相談窓口対応実件数】**

4月： 25件（うち新規 13件）、空き家バンク物件成約 1件（土地）  
5月： 16件（うち新規 14件）、空き家バンク物件成約 2件  
6月： 18件（うち新規 15件）、空き家バンク物件成約 なし  
7月： 22件（うち新規 21件）、空き家バンク物件成約 2件  
8月： 16件（うち新規 15件）、空き家バンク物件成約 1件  
9月： 12件（うち新規 12件）、空き家バンク物件成約 4件（うち土地2件）  
10月： 6件（うち新規 5件）、空き家バンク物件成約 なし  
11月： 9件（うち新規 7件）、空き家バンク物件成約 3件（うち土地1件）  
12月： 10件（うち新規 10件）、空き家バンク物件成約 なし  
1月： 18件（うち新規 18件）、空き家バンク物件成約 2件（うち土地1件）  
2月： 17件（うち新規 17件）、空き家バンク物件成約 4件  
3月： 15件（うち新規 11件）、空き家バンク物件成約 4件  
年間計：184件（うち新規158件）、空き家バンク物件成約23件（うち土地5件）  
前年度：142件（うち新規104件）、空き家バンク物件成約16件（うち土地1件）

**（6）地域おこし協力隊募集・フォロー業務**

4月に“地域おこし協力隊募集・フォロー業務”の委託契約を締結。町内の地域おこし協力隊員が生活や就労等における悩みなどを気軽に相談できる体制を整備するとともに、現役隊員やOBOG、行政職員、地域住民との交流機会を創り、人と町を知る中で、隊員の一人ひとりが町内の生活・就労環境に合わせたそれぞれのライフスタイルを構築し、津別町への定住促進を目的として実施している。

常設の相談窓口として地域生活における隊員本人への相談対応や、定期的に職場を訪問し指揮監督者との面談、隔月で隊員同士やOBOG・行政職員・地域住民等を含めた交流の機会を設けての情報交換などを行う。

地域おこし協力隊の募集業務においては、募集サイトの新機能を活用する等効果的な募集活動を行う。

**2. 求人求職マッチング促進事業**

**①事業概要**

移住定住及び空き家についてはワンストップ対応を通じての実績を積み上げてきたところだが、“住”と併せて“職”を紹介することで、より効果的となると考える中でツールが無かったことや、過去に実施した町内事業者へのヒアリング等を通じて人材不足や求人課題を問題視する事業者も複数あったことから、課題解決に向けた施策を実施する。

**②進捗状況**

	<p>《ワーク I N ツベツ（北海道津別町仕事情報発信サイト）》          令和2年度事業としてサイト構築及び掲載企業への取材などを実施。令和3年6月21日にリリースした。          現在、35件の企業・事業者が掲載されている。          令和5年度サイト閲覧数：7,439回（1日平均20.3回閲覧されている）</p>
--	---

<p>3. 大学生との連携によるまちづくり事業（北海道大学課外活動団体HALCCとの連携事業）</p>	<p><b>①事業概要</b>          平成28年に実施した地方創生まちづくりアイデアコンペで優秀賞を獲得したことをきっかけに北海道大学公政策大学院とのつながりが生まれ、課外活動団体HALCCが設立された。          同年度より活動を開始し、現在まで継続されており、コロナ禍であってもオンラインとオフラインを組み合わせ実施してきた。          令和5年度は、HALCCの活動として14名の学生が来町し、地方創生について現地調査と発表会を実施した。          令和5年度の財源として“いきいきふるさと推進事業助成金”1,230,000円を申請した。          実績額は、690,000円となった（対象事業費は1,399,446円）。</p> <p><b>②進捗状況</b>          (1) 高大連携事業          ・<u>町政要覧から考える理想の津別</u>          ～理想の津別町を考え、現状そして未来の津別町にあったらいいもの、あってほしいものと考え、津別の未来を「自分ごと（自分のこと）」とすることで、“調べる力”“考える力”“伝える力”を身に着けることを目的とする～          (2) 大学生独自事業          ・<u>つべつギルド～世代間交流を解決するお悩みプラットフォーム～</u>          子ども世代の困り事を高齢者が、逆に高齢者の困り事を子ども世代が解決をしていくための「ギルドシステム」を構築しようという提案で、このシステムには行政も困り事を依頼でき、子ども世代と高齢者が共に解決を図ることで世代間交流を促進していく事業である。          また、本提言は内閣府主催、経済産業省共催で開催されている「地方創生☆政策アイデアコンテスト2023」において、北海道ブロック44作品の中から北海道経済産業局長賞に選出された。          ・<u>HALCC+の創設</u>          令和6年度より、HALCCと地域学生及び地域住民が「実践的活動」を地域の活性化を目的として、「HALCC+」を創設。将来的に、地域学生・地域住民の主体的な交流や活動の受け皿になることを目標としている。</p>
---	--

令和6年度では、地域情報誌プロジェクトを実施。主に津別町の日常を題材にした情報誌を作成する予定である。

・北大祭でのクマヤキ販売

令和4年度の「クマヤキ免許証プロジェクト」をきっかけに、HALCCメンバーの一人がクマヤキ修行を行い、北大祭でクマヤキの実演販売を実施した。

6月2日～4日の3日間で、目標販売個数2,200個を完売。次年度以降も北大祭でのクマヤキ実演販売は継続していく予定である。

【全体行程（実績）】

日 程	内 容	会場等	備 考
5月18日～20日	高大連携事業	津別高校	
7月14日～16日	高大連携事業	津別高校	
9月22日	北大マルシェ準備	津別高校	
9月23日～24日	北大マルシェ出展	北海道大学	
10月26日～28日	高大連携事業	津別高校	
11月17日～18日	高大連携事業	津別高校	
12月14日～15日	活動成果報告会準備	津別高校、町民会館	
12月16日	活動成果報告会	町民会館	YouTube：道東テレビアカウントにて視聴可能
2月 8日～10日	次年度に向けた打合せ	津別高校	

4. 地域・文化交流+交通拠点整備で  
まちなかの賑わい  
創出プロジェクト  
※大通地区コミュニ  
ティ施設

①事業概要

津別町における地方創生を実現するために、地域資源を活用したコンパクトなまちづくりに取り組み、子育て世代や高齢者が安心して暮らせる環境整備と雇用の場を創出することによって、「まちなか地区」を再生し、現在の「まちなか地区」の人口を可能な限り維持していく。その中で、豊かな自然環境と地域資源を活かし、津別町で働き、暮らしたいと思える活力あるまちづくりや、自然豊かな生活環境を次世代へ継承するとともに、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指すため、地方創生事業の一つである「まちなか再生事業」として本施設整備に取り組む。

地元特産品等の購入者等との交流拡大を通じて一層の観光振興と関係人口の拡大を図り、移住定住につなげる取組を継続的に推進していく。

交付金名称	事業	交付対象事業費	交付決定額	実績額
地方創生 拠点整備タイプ	<b>【施設名称】</b> 津別町大通地区コミュニティ施設  <b>【整備内容】</b> コミュニティスペース、複合交通拠点、地場産品・特産品を販売する商業機能、図書館（交付対象外）等の建設工事を実施。	315,295,000 円	157,647,000 円	157,647,000 円
地方創生 推進タイプ	<b>【事業名】</b> まちなかの賑わい創出に向けた地域・文化交流+交通拠点整備計画（効果促進・ソフト）  <b>【事業内容】</b> コミュニティスペース、複合交通拠点、地場産品・特産品を販売する商業機能、図書館（交付対象外）等の建設工事に係る効果促進事業として、整備施設の価値を最大限に活かすための備品等を整備する。	97,023,410 円	48,382,000 円	48,382,000 円

## ②進捗状況

### ・大通地区コミュニティ施設の愛称

大通地区コミュニティ施設の愛称を決定すべく、全国に愛称を募集した。

全国各地から応募があり、応募総数は714件となった。役場内部で714件から24件まで絞り込みを行い、小学生（4～6年生）と中学生（1～3年生）に実施したアンケート結果をもとに、「ウッドリーム」に決定した。「ウッドリーム」には“木のぬくもりと夢で溢れる場であるように”という願いが込められている。

愛称採用者は、津別中学校3年 斉藤叶夢（さいとうかなた）氏

### ・供用開始まで

5月16日にグリーンマートINつべつのプレオープン。

7月1日に図書館、11月17日にバスターミナル、11月18日に津別ハイヤーの営業開始をもって大通地区コミュニティ施設の全機能の供用が開始した。11月12日にはオープン記念式典を敢行した。

### ・指定管理者

施設の指定管理者には、北海道つべつまちづくり株式会社を選定した。

指定管理者は、施設の維持管理だけでなく、町民にとっての交流の場、憩いの場となるような、イベント等の開催について企画立案から実施までを行うことを指定管理条件としている。

#### 【令和5年度開催イベント】

- ① 7月 1日 北見室内管弦楽団（図書館開館記念コンサート）
- ② 8月20日 桜木柴乃講演会（図書館開館記念事業）
- ③ 8月26日 看板製作ワークショップ（まちづくり会社）  
※チミケップキャンプ場内の看板リニューアルに係るイベント
- ④ 12月22日 スマートフォン使い方講座（役場総務課）  
～23日 //
- ⑤ 12月22日 歳末特別警戒パトロール（防犯協会）  
26日 //  
28日 //
- ⑥ 1月10日 「110番の日」啓発活動（美幌警察署）
- ⑦ 3月 1日 福本ゆめ ほろ酔いコンサート（まちづくり会社）  
2日 「二胡体験会」「ミニコンサート」
- ⑧ 3月16日 「TAKE ACTION チームビルディング研修」（TAKE ACTION）

### ・年間入館者数及び年間開館日数

年間入館者数：130,753人（389人／日）

年間開館日数：336日

